

照英流

イクメン・カジメンへのエール

スペシャルゲスト

照英(しょうえい)氏 俳優・タレント

1974年4月4日生まれ
埼玉県鴻巣市出身

学生時代、やり投げで活躍。1998年「スーパー戦隊シリーズ」で俳優デビュー。「水戸黄門」に風の鬼若役で出演。タレント・俳優として様々な番組に出演中。2008年4月～2013年3月までNHK教育の育児番組「すくすく子育て」の司会を務め、人気を得るとともに、3児の父としての等身大の子育て論が共感を呼んでいる。また、情報番組の料理コーナーへの出演を機に、休日には家族にランチを振る舞うカジメンでもある。



ゲスト

横田 智史(よこた さとし) 氏

株式会社ペンギンエデュケーション(保育園)代表取締役



ゲスト

宮沢 美智子(みやざわ みちこ) 氏

いろいろ代表 地元子育てママ



北極からも朝夕6時半コール

あいな：照英さんは3人のお子さんのパパでいらっしゃいますよね。

照英：はい。長男10歳、長女7歳、次女1歳で、3人の子育て真っ最中です。自分は妻をサポートしているつもりですが、共同作業と言っても妻の負担が大きいのが気になります。

あいな：照英さんは仕事がとても忙しいなか、どのようにしてお子さんと向き合う時間を作っていますか？

照英：ロケで不在が多いので、なるべく家族との時間を大切にしています。例えば、夜中の3時に疲れて帰宅した時でも、子どもたちと同じ6時半には絶対に起きます。ロケに行っている時は、朝6時半、夕方6時半に電話をします。これは結婚してから11年間続いています。北極ロケの時も衛星電話を契約して電話しました。電話で「元気？」と声を聞いて、30秒で終わるのにすごく安堵感をもらえます。

パートナーへのサポートや感謝が大事

あいな：横田さんもパパとして、照英さんのお話はいかがですか？

横田：理想だなと思いました。僕も保育園の園長をしていますが、パートナーに対するサポートや感謝の気持ちが一番大事だと思います。何百人という保護者の皆さんと会ってきましたが、パートナー同士のコミュニケーションがとれていると、女性が家事をするのが当たり前とっていません。

当たり前という視点と当たり前じゃないという視点とでは、夫婦間の会話も変わってきます。

照英：うちも小さなことでよく喧嘩しますよ。



横田：うちもあります。違うところで生まれ育った二人が家庭を作っていく訳で、価値観も違います。男性が「俺が仕事で稼いでくるから、お前は家のこと完璧にやっつけよ」という考えはやはり違うと思います。仕事も生活もお互いやる方が、一緒に協力してやっていこうよというスタンスが有るか無いかで、子育てにも大きな影響が出てきます。

ママが期待する、パパの育児・家事参加

あいな：宮沢さんは、パパは育児や家事にこんなふうに参加してほしいというのはありますか？

宮沢：私は夫婦間って「北風と太陽」の太陽のように、お互いを思い合って相手が求めるものや愛を与え続ける。そうすれば自ずと自分で動いてくれるんじゃないかというのが理想的なイメージです。でもそれがなかなか難しいんですよね。男性が「今、妻は何を求めているのかな？」と工夫してくみ取ってくれると嬉しいですね。

働き方改革

あいな：子育てと仕事のバランスが重要になってきますが、横田さんは専門的な立場でいかがですか？

横田：高度経済成長の時代は、男性が外で働いて女性は中で育児・家事をするという体制でした。でも今は共働き世帯が増えてきて、女性が仕事をしないと家も社会も回らない時代です。ここで、男性が育児・家事に積極的に参加するというのが大事になってきます。それ以上の課題が、男性の長時間労働の常態化です。仕事は共働きでも、育児・家事は女性だけがやっています。それでもう1人子どもが欲しいと思っても、「もう産めない、あと1人産んでもまた私が見るだけじゃよ？」となってしまう。男性がよく「休日は家族サービス」などと言いますが、それはNGワードで、家族サービ

スが当たり前だと言いたいです。当たり前前の意識まで持っていくためには、やはり時間を生み出す必要があり、働き方改革が大事です。

あいな：仕事も家事も充実というのが、女性も男性も共にそうありたいと思いますよね。きっとその姿を、お子さんも見ていると思います。

女性の活躍

照英：妻は専業主婦で子育て中ですが、以前はラジオの仕事をしていたので、「またやりなよ」と言ったら、否定しながらも顔は笑っているんです。多分やりたい気持ちがあるので、それを前に押し出してあげたいと思います。

す。子どもにも妻の働く姿を見せたいです。

あいな：その一歩を踏み出したけれど踏み出せない方もいらっしゃると思うので、そういう環境づくりは大事ですね。

照英：妻が夢を少しずつ実現できるように応援したいです。

横田：女性のほうがそういう内に秘めた気持ちみたいなものは持っていますが、男性が聞く耳や姿勢を持たないようです。僕は保育園の園長をしていますが、10年間で保護者から相談されてきた内容の多くは、子育ての悩みではなく、旦那が育児しない等の愚痴と相談です(笑)。まずは夫婦間できちんと対話することが必要です。

宮沢：話し合いは大事ですね。私も以前は自己肯定感が低い時期がありましたが、そうなると女性はいくら頑張っても空回りして幸せを感じられませんか。だからそこは夫にフォローしてもらえると嬉しいです。

横田：ほとんどのママが良いママにならなきゃいけないと思っています。良いママじゃなくて、笑っているママになろうということは誰でもできるし、世界一大好きなママがいつも笑っているから子どもも笑うようになります。ここで一番大事なのはやはり男性です。女性活躍と言われていますが、女性はとくに活躍しています。やはり男性が仕事だけで終



わっていいの、ということなんです。今は人生100年と言われ、定年退職後に第2の人生が始まるわけですから、その時に全く地域に参画していなかったら、元の会社の名刺なんて通用しません。東日本大震災で「地域に生かされている」ということを我々は実感しているわけですから、やはり地域の一員として参画していく時間を作って、今から何かアクションを起こす必要があります。仕事だけで人生を終わらせるのはもったいないです。

感想

あいな：最後に、皆さんの感想をお願いします。

宮沢：照英さんにはテレビ番組だけでなく本日もお会いして、家族への絶対的な愛を感じました。やはり家庭は基本で、改めて大事にしようと思いました。横田さんとのお話では、私がこれまで手探りで夫と向き合ったことはやはり間違いではないのだと確信しましたので、これからの支えにしたいと思います。

横田：僕は福島県内でワークライフバランスという話をさせていただいていますが、県内三地方で一番取り組みが早いのがいわき市です。男性は女性をサポートできるほうがカッコイイし、それが笑っているママを生み出します。そして独身の方にとっても、既婚の上司が生活面もキラキラしていて、そして管理職になると給料も高くなって、ちゃんと時間内に帰れて、という理想の上司像を作り次世代につなげていくことが今一番重要な取り組みだと思います。

照英：子育てで大事なのは、遊ぶ時は親が真剣に楽しむことです。子どもを楽しませるのではなく、親が楽しんでいけば子どもはどんな遊びだって楽しめます。親が全力で遊ぶ、全力でなんでも取り組むことを子どもによく見せてあげてください。あとは、ママが働いていて忙しくても、子どもは必ず愛を求めていますから、今何を訴えて何を望んでいるのか、ちゃんと目で確認してあげてください。



イクメン・カジメン 照英さん Q&A

Q: 得意料理は？

A: 残り野菜などでチャーハンをよく作ります。これからはお父さんにしか作れないような料理を作りたいです。今、少しずつ自分の調理器具を増やしている最中です。皆さんもぜひ自分の十八番の料理を見つけてください。

Q: 夫婦間でパートナーシップを築くコツは？

A: 温泉とか、妻が好きなことを必ずやらせてあげることです。そういうことで女性は頑張れると思います。ストレスが溜まらない人なんていませんから、どこかで気持ちを晴らせる機会を作ってあげると良いと思います。

